

平成29年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川中学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善への取組を通して、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成29年4月18日(火)

3 対象学年 女川中学校 第3学年生徒 48名 当日実施生徒46名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査 国語・数学
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と全国との比較

	国語A	国語B	数学A	数学B
宮城県	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼
全 国	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	5ポイント程度下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

① 調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「話すこと」については、特に「事実と考えとの関係に注意し、構成を工夫して話す」力が高い。
- ・「書くこと」については、特に「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」力が高い。
- ・「読むこと」については、「登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する」力や、「目的に応じて必要な情報を読み取る」力が高い。
- ・言語事項については、「助詞の働きについての理解」が高い。

(課題)

- ・「話すこと」については、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」力に課題がある。
- ・「書くこと」については、「集めた材料を整理して文章を構成する」力に課題がある。
- ・「読むこと」については、「文章の要旨を捉える」ことや、「文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えを持つ」ことに課題がある。
- ・言語事項については、漢字の書き取りに課題がある。

② 指導改善のポイント

- ・「話すこと」については、ペアトークや話し合い活動の時間を確保して、相手意識を持って会話ができるよう訓練を積む必要がある。
- ・「書くこと」については、資料を分析、比較して、自分の考えを書く訓練を積む必要がある。

- ・「読むこと」については、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けながら、要旨を捉える訓練を積む必要がある。また、読む際に「書き手」を意識し、構成や展開、表現について書き手の意図を考える訓練も必要である。
- ・言語事項については、漢字の小テストは継続してきたものの、その後の定着に課題があると考える。したがって、家庭での漢字練習プリントを配布し、漢字練習を習慣づけていきたい。

(2) 数学の成果・課題と指導改善のポイント(県・全国と比較して特に課題のある点を中心に)

① 調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・「数と式」については、全体的に県・全国よりも正答率は低いが、分数の乗法の計算や整数の加法と減法の計算については県・全国より高い。
- ・「図形」については、全体的に県・全国よりもやや正答率は低いが、立体の体積を求めることや平面図形についての理解力が県・全国よりも高い。

(課題)

- ・「数と式」については、連立二元一次方程式を解くことや、等式の変形・数量の関係を文字式に表す力が県・全国よりも低い。
- ・「図形」については、錯角などの意味や公式を利用して弧の長さや内角の和を求める力が県・全国よりも低い。
- ・「関数」については、ほぼ全ての設問において県・全国を下回っており、大きな課題である。
- ・「資料の活用」については、全ての設問において全国を下回っており、大きな課題である。
- ・活用する力については、設問15のうち11問が県・全国の正答率よりも低い。特に、合同などを証明する力や式や資料について説明する力については大きく下回り、課題である。

② 指導改善のポイント

- ・「数と式」については、計算のきまりを確認し、確実に計算できるように指導する。また、事柄や数量の関係を文字式で表したり、その文字式の意味を読み取ったりする問題を数多く行わせる。
- ・「図形」については、基礎・基本的な用語を理解させ、公式を使用する問題を数多く行わせる。
- ・「関数」については、関数の意味を理解させ、式からグラフを書いたり、グラフから式を表すことが確実にできるように指導する。
- ・「資料の活用」については、基礎・基本的な用語を理解させ、相対度数などの必要性和意味を理解できるように指導する。
- ・活用する力については、事象の特徴を的確に捉え、数学的に説明する力や与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取る力を高めるための指導が必要である。

7 生活習慣や学習習慣に関する調査から(○：良好なもの ▲：改善が必要だと思われるもの)

〈生活習慣・意識調査について〉

- 「毎日、同じくらいの時間に就寝・起床しているか」について、「している」・「どちらかといえば、している」と回答した生徒の割合がやや高い。
- 「学校の部活動に参加していますか」について「参加している」・「どちらかといえば、している」と回答した生徒が県・全国平均より高く、「普段(月～金)の活動時間」は1時間以上3時間以内と回答している生徒の割合が県・全国平均より高い。
- 「学校で、友達に会うのは楽しいことと思いますか。」について「楽しい」・「どちらかといえば、楽しい」と回答した生徒の割合が県・全国平均よりやや高い。

- 「地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか」について「ある」・「どちらかといえば、ある」と回答した生徒の割合が県・全国平均よりやや高い。
- 「学校の規則を守っていますか」について「守っている」・「どちらかといえば、守っている」と回答した生徒の割合が県・全国平均よりやや高い。
- 「人が困っている時は、進んで助けていますか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、正義感・使命感を持っている生徒がやや多い傾向にある。しかし「人の役に立つ人間になりたいと思うか」については、「なりたい」・「どちらかといえば、なりたい」と回答した生徒の割合が県・全国平均よりもやや少ない。
- 「新聞を読んでいますか」について生徒が県・全国平均よりやや低いが、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）」について県・全国平均よりやや高い。
- ▲「朝食を毎日食べていますか」について「食べている」・「どちらかといえば、食べている」と回答した生徒の割合が県・全国平均よりやや低い。
- ▲「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「将来の夢や目標を持っていますか」については県・全国平均よりやや低く、達成感を持つ生徒が少ない。
- ▲「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」、「自分には、よいところがあると思いますか」については、県・全国平均より低く、自己肯定感を持っている生徒が少ない。
- ▲「普段（月～金）、家を出発して学校に到着するのにかかる時間」について30分以内と回答している生徒が県・全国平均より少なく、登校に時間のかかる生徒の割合が高い傾向にある。
- ▲「学校に行くのは楽しいと思いますか」について「楽しい」・「どちらかといえば、楽しい」と生徒」回答した生徒の割合が県・全国平均より低い。
- ▲地域社会に対する関心の高い生徒の割合が、県・全国平均より低い。
- ▲「外国への興味」、「海外留学や国際的な仕事」への興味が低い。

〈学習を阻害する要因について〉

- テレビやビデオ・DVD を見ている時間（4時間以上）が全国・県平均よりやや高い。
- テレビゲーム（携帯ゲームなど）の時間（4時間以上）が全国・県平均よりやや高い。
- 携帯の使い方について家の人と約束していない生徒の割合が全国・県平均より高い。

〈学力向上を促進する要因について〉

- 学校以外で読書をする時間が県・全国平均よりも多い。
- ▲平日・休日ともに、家庭学習時間が県・全国平均よりも少ない。
- ▲学習塾に通っている生徒の割合が県・全国平均より低い。
- ▲家で学校の授業の復習をしている生徒の割合が県・全国平均よりもやや低い。
- ▲学校で、好きな授業がある生徒の割合が県・全国平均よりも低い。

〈授業に関する調査について〉

- 1, 2年生の時に受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたかという項目では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県・全国平均を大幅に上回っている。
- 国語の勉強は好きかという質問では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県・全国平均を上回っている。
- 国語の勉強は大切だと思うかという質問では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県・全国平均を上回っている。
- 国語の授業がよくわかるかという質問では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県・全国平均を上回っている。
- 数学の勉強は大切だと思うかという質問では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が県・全国平均を上回っている。

- ▲家で学校の宿題をしている生徒の割合が県・全国平均より下回っている。
- ▲家で学校の授業の復習をしている生徒の割合が県平均より下回っている。
- ▲学校で好きな授業がある生徒の割合が県・全国平均より下回っている。
- ▲数学の勉強が好きな生徒の割合が県・全国平均をやや下回っている。
- ▲数学ができるようになりたい生徒の割合が県・全国平均を下回っている。

8 今後の取組

(1) 学びの土台となる望ましい生活習慣・学習習慣の形成

- ① 「MY SEVEN DAYSノート」の活用を通して、学習時間・睡眠時間・ゲーム（スマートフォン利用）の時間を振り返らせるとともに、翌日の授業・宿題・準備物をはじめとした予定等について見通しを持たせて自己（生活）管理能力を育てる。
- ② 生徒会で望ましい携帯電話の利用について呼びかけている「1210運動」（1日2時間以内の使用，22時まで使用を終える）を支援し，保護者の皆様との連携を図る。
- ③ 毎日の家庭学習の取組の成果を「自主学習ノート」に記入し，提出させる。

(2) 学習指導の充実

- ① 今回の学力・学習状況調査の結果を踏まえた，前述の国語・数学「指導改善のポイント」を教員間で共有し，授業を中心とした教科指導において実践していく。
- ② 毎朝の読書活動を通して，生徒の文章読解力・漢字力・集中力を高めさせる。
- ③ 校内研究〔研究主題：主体的に学び，考え，表現することができる生徒の育成～言語活動の充実を通して～〕の推進による教師の教科指導力の向上・生徒の主体的な学びの育成と授業における言語活動の充実を図る。
- ④ 小学校・中学校・向学館との連携による「合同授業研究会」（年2回）の実施を通して，各校種・各教科の学習内容の系統性について理解を深め，それを意識した授業を展開する。
- ⑤ 中学校・向学館との連携による「夏季・冬季休業学習会」の実施と漢字検定・数学検定・英語検定の本校実施により，生徒に主体的で多様な学習機会・実力試しの場を提供する。

※ 漢字検定・数学検定・英語検定の受験料：町費による補助制度がある。